

UCバークレー校に見るマイノリティ学生への学習の公正性に着目した教育

放送大学教授 岩崎 久美子

バークレー校の多様な学生

カリフォルニア大学バークレー校（以下、UCバークレー）は、米国西海岸に位置し、一〇の大学からなるカリフォルニア大学機構の一つである。常に世界大学ランキングのトップ一〇に入り、その校風はリベラルで革新的であることでも有名である。大学の学生構成は、**図表1**をみてわかるように、白人は二割以下、アジア系が約四割を占め、マイノリティの割合も二割、エスニシティが多様であることも特徴である。

学生の多様性は、ダイナミズムを醸成する一方で、「公正性」(equity)の観点をクロージアップさせる。大学における公正性とは、単に平等な機会提供だけではなく、学生の機会、授業の難易度、負荷に差がある場合、目的達成のために、その差を是正する方策を取ることにある。今回紹介するのは、UCバークレーにおけるマイノリティ学生の学習の公平性に焦点を置いた教育方法である。

米国の高等教育では、アフリカ系アメリカ人、アメリカインディアン、アラスカ先住民、ヒスパニックなどのマイノリティ集団など、

オンライン上で回答を求める。これに回答することは、単位付与要件の一部となっている。

1. なぜこのコースをとるのか。このコースは自分の関心にどう関連しているのか。
2. このコースで学習する上で最もチャレンジングと思われる概念は何か。
3. 大学入学前の教育経験において、教員などのようなことが学習を妨げたか。
4. これまでの中で一番よかった教員について思い出し、その教育実践のどのようなところが学習に良い影響を与えたと思うか。
5. 教室での学業達成に影響を与える教室以外での要因があれば、それは何か。知られても良いことに限って検討してほしい。

以上の情報を集約し、最も頻度の高い回答を検討し、学生の成績、学生へのフィードバック、教室での参与観察でどんなパターンがあるかなど、学生理解の役立つものをチェックし分析する。クラスの一〇%以上が言及している内容の場合、教授方法を適応させる検討をする。一〇%以下のものは個別支援や特定リソースがどのように提供できるかを考慮する。たとえば授業のビデオ録画、予備知識を前提としない特定リーディングや補助的教材の提供、などの工夫や配慮が挙げられる。

学生の回答に基づき、学生の学習の妨げになった事柄や学習を促した教師の実践を特定し、授業のルール作りをする。目標は、学生の学習環境を支援的でチャレンジングなもの、快適なものにすることである。このような学内のルールづくりは、学生の積極的学習への関与、継続的学習や成長のための包摂的空間を醸成することに向けた教員コミュニティの合意や連携を生み出す。

歴史的に少数派とされ過小に評価されてきた者の学業達成への心理的障壁が、かねてから問題とされてきた。このような集団に対して提唱されているのが「適応的公平性志向の教育方法」(Adaptive Equity-Oriented

アジア系約4割

図表1 エスニシティ別学部入学者データ(2021年秋)

	入学者数	割合(%)
アフリカ系アメリカ	258	3.7
メキシコ系アメリカ	1,013	14.6
上記以外のラテン・アメリカ系アメリカ	298	4.3
ネイティブ・アメリカ/アラスカ先住民	27	0.4
太平洋諸島住民	18	0.3
中国	1,039	15.0
フィリピン	230	3.3
日本	90	1.3
韓国	307	4.4
上記以外のアジア	85	1.2
南アジア	846	12.2
ベトナム	255	3.7
白人	1,320	19.0
不明	272	3.9
留学生	887	12.8
合計	6,945	100.0
うちマイノリティ	1,614	23.2

<https://opa.berkeley.edu/uc-berkeley-fall-enrollment-data-new-undergraduates> (検索日:2011.11.20)

教育方法の戦略

マイノリティ学生の心理的障壁としては、自己を過少評価するインポスター症候群や集団のステレオタイプに適合するステレオタイプ脅威などがある。そのため、次の八つの戦略で学生の学業達成を促す。

1. 段階的指導内容が書かれているものに沿って学生に問題や課題への期待を提示し、専門的で高度な思考をモデリングさせる。このことは、学生が多様な評価や課題完了の際に、応用可能なスキルや思考プロセスを特定させ、自信を育む。
2. 気楽で身近なフィードバック (low stakes feedback) ができる状況で、個別にそして小集団において、意図的に専門的で高度な思考戦略を実践する機会を提供する。
3. 教室外での効果的時間活用の戦略や支援を求めるタイミングの目安を提示する。書面か口頭で「この課題について三時間以上時間がかかっているのであれば、オフィス・アワーに研究室に来るかeメールをください。わたしたちは、あなたの成功を請け負う責任があるのです」などと具体的に学生に通知する。
4. 専門性の獲得などの成長に高い価値を置く環境を常態とする。学生がわからなかったり、明確に理解できない場合、支援を求めたり、わからないことをオープンに表現することを奨励される場を育てる。
5. 提出締切の延長など柔軟な対応をとることや、インターネット・アクセスの不備、自宅での学習スペースがないこと、基本的ニーズの充足など環境的課題を抱えている

Pedagogies、以下、AEP)とされる学習の公正性に着目した教育である。

適応型公平性志向の教育学

AEPは、マイノリティ学生の多様な学習ニーズに対する、いわば学習のユニバーサル・デザインである。学業達成のためには、学生のものの方、強み、興味・関心、成長分野、経歴や学習の妨げとなるものを理解することが重要である。そのため、AEPでは、次のような点を強調する。

- ・ 学習成果を明確にすること
- ・ 成果に伴う形成的評価を行うこと
- ・ 学生の能力、興味・関心、ニーズを特定すること
- ・ 十分な成果を挙げるために公正性の妨げとなっているものを理解すること
- ・ ニーズと障壁に応じた教授実践を行うこと
- ・ 反復すること・継続的学習と成長を支援する教育方法を熟考すること

新学期に学生に次のような質問を提示し、

場合、支援する。

6. 学習を促す教室内での貢献を認証する。
 7. 教室内、インターネット上の掲示板を通じて互いの活動貢献の確認を奨励する。
 8. 学生の実際の経験、関心やキャリア目標に関連した概念を適用できるプロジェクトや課題を提示する。カリキュラム構成において、学生が有意義と思う新たな状況に概念を適用させる機会を作る。
- AEPの戦略により、マイノリティ学生は、学業達成はアイデンティやバックグラウンドにより規定されるのではなく、自分たちの努力や課題遂行によるのだといった成功体験や認識を持つことができる。また、AEPにより学習の公正性の観点からの教育方法を掲げること、マイノリティ学生の支援に焦点があてられた教育介入が可能になる。マイノリティ学生は、教員からの明確な期待や厳格な目標設定、問題解決戦略、細やかなフィードバック、学生の成功を促すプロジェクトや成功例の提示など、学習の公平性を戦略的に担保する教育プロセスに参加する。このことを通じ、心理的支援を得ることができ、学習に対し強く動機づけられるのである。

〈参考文献〉

Andrew Estrada Phuong, Judy Nguyen, Fabrizio Mejia, Christopher Hunn, Dena Marie, "Equitable teaching that creates pathways to success for all students", *The Times Higher Education*, 25 June 2021. < <https://www.timeshighereducation.com/campus/equitable-teaching-creates-pathways-success-all-students> 〉 (閲覧日:二〇二一年十二月一日)

